緑肥の作り方

１．緑肥の目的

（１）物理性の改善：作物の根の生活環境が良くなる

①団粒構造の形成、②透水性の改善、③通気性の改善

（２）化学性の改善

①保肥力の増大：有機物が微生物に分解されて、腐植を形成。

②クリーニングクロップ：過剰な肥料成分を緑肥に吸収させ、搬出。

③空中窒素の固定：マメ科の根に着生している根粒菌によって、空気中のチッソを固定。土壌の肥沃化。

（３）生物性の改善：土壌中の微生物に対して

①作物の根から出る糖類をエサにして増殖。

②マメ科などの内生菌根菌と共生し、リン酸の吸収能を高める。

③有害センチュウの抑制：有用微生物を増殖。土壌病害を軽減。

（４）環境保全

①景観の美化、②表土の流出、③観光

（５）防風対策：海岸沿い、吹きさらしの場所

（６）敷きわら利用

⇒カボチャなどのウリ類の敷きわら代替

（７）ドリフト対策

２．緑肥を選ぶポイント

①目的は？

②計画的に！（圃場のローテーション：栽培）

③緑肥の**栽培期間**と**腐熟期間**を充分に

⇒すき込む事を考えると・・・

老刈り＞若刈り、トウモロコシ・ソルゴー＞麦類、根＞茎葉・・・分解遅い

④緑肥の**草丈（作業性）**

・腰の高さ→トラクターで倒しロータリーで

・トウモロコシやソルゴーは**草丈 2m以上**

３．代表的な緑肥作物の種類と特性

①イネ科：有機物、深根性→土壌の改良効果

ムギ類、ギニアグラス、ソルゴー、イタリアンライグラス、トウモロコシなど

②マメ科：地力の増強→土壌の肥沃化

クロタラリア、レンゲ、クローバなど

③キク科：ネグサレセンチュウ対策、景観

マリーゴールドなど

※ 緑肥及びセンチュウの効果は作物、品種により異なる。

４．施肥、は種時のポイント

①イネ科：チッソで3～5ｋｇ程度目安

②マメ科：チッソで2～3ｋｇ程度目安

（注意点）

・前作、目的を考えて行う。

・ハウスなど肥料成分が多く、**除塩対策で行う場合は無施肥**で行う。

・は種量が少ないものは**燐酸質資材**と混ぜるのもひとつの手。

・覆土と鎮圧：**深さ３ｃｍ程度**（種子の大きさの 3～5 倍程度に！）

・覆土が無いと・・・鳥に食べられる。

・鎮圧しないと・・・乾いていると発芽が不良

５．すき込み時の注意

①一般に刈り取り、すき込みの適期は**出穂期～穂ぞろい期**

②特に**炭素率（Ｃ/Ｎ比）が高いトウモロコシ、ソルゴー**は分解を促進するために**石灰チッソを 40～60ｋｇ/10ａ程度施用**し、すき込む。

③**すき込み後すぐに、次作のは種・定植はしない**→発芽、生育障害のもと

『分解にともなうガスの発生、窒素飢餓』

④岐根の発生を抑えるために**大根などの根菜類は深めにすき込む**→岐根の発生

⇒露地で最低約１ヶ月、施設で３週間の腐熟期間が必要！！

（余裕を持って行ないましょう。圃場の状態、すき込み時期により腐熟期間が異なります）

表．作物別の有害センチュウ

	ネコブセンチュウ				ネグサレセンチュウ		
	サツマイモ	ジャワ	キ タ	アレナリナ	キ タ	ミナミ	クルミ
キュウリ	○	○	○	○	○	○	○
カボチャ	○	○	○	○	○	○	○
メロン	○	○	○			○	○
マクワ					○	○	○
スイカ	○	○		○	○	○	○
ナス	○	○	○	○	○	○	○
トマト	○	○	○	○	○	○	○
エンドウ			○		○	○	○
インゲン	○				○	○	○
バレイショ	○	○	○	○	○	○	○
サツマイモ	○				○	○	
サトイモ	○	○		○	○	○	
ヤマノイモ	○	○	○			○	
ショウガ	○	○					○
ネギ	○	○	○	○	○	○	○
ニラ							○
カブ	○				○	○	○
ダイコン	○	○	○	○	○	○	○
ニンジン	○	○	○	○	○	○	○
ゴボウ	○	○	○	○	○	○	○
ハクサイ	○	○	○	○	○	○	○
キャベツ	○	○	○	○	○	○	○
ホウレンソウ	○	○	○	○	○	○	○